

題字：木坂
西野一男さん



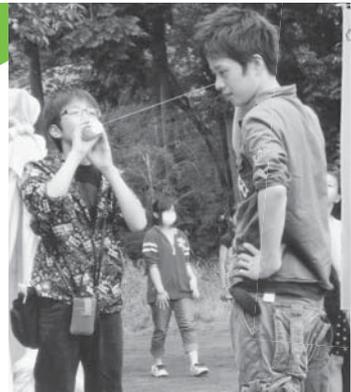
KAGAYAKU

かがやく

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー

感動人生！ここに生きる元気な人間びと

▶お兄さんの顔に絵の具で描いちゃった



▲糸電話



▲チョコレートフォンデュ美味しい!!



▲仲間集めゲーム



▲竹馬



▲のこぎり



▲自己紹介タイム

■青少年活動センターむささびひろばボランティア(東金子) 自然の中で学び合う

「こんな高い所に登ったヨ！」虫見いつけた「緑豊かな自然に囲まれた広場で思いっきり遊ぶ子どもたちとそれを見守る青少年ボランティア。青少年活動センターで月に1回開催している『むささびひろば』が始まったのは平成21年。

『むささびひろば』は、外で遊ぶ子どもが少なくなったように感じられる昨今、外遊びに触れられるように、自然が多いセンターの立地を活かしながら、のびのびと遊べる空間を定期的につくることができないか、との想いから手探りで始められたものです。

運営のモットーは「子どもたちが自身が遊びを探して自由に遊ぶ」来たいと思った時に気軽に遊びに来られるように、事前の申し込みはあえて不要としているそうです。

「のこぎりを使う時など、危険を伴う場合にはサポートしますが、基本的には子どもたちの自主性を尊重して、必要以上の手助けは控えています。怪我や事故からどうやって身を守るか、自分自身で学ぶことも大切ではないかと考えています」。

運営はボランティアの青少年とセンターの職員が行っています。彼らにここでの想いを聞きました。

「子どもたちの自主性を大事にして自由に共に遊べるのが良いです。色々な経験もさせてあげたい。どこまでサポートしたら良いかなど、迷うことも多いのですが、皆で一つ一つ考えながらやっています。充実してとても楽しいです」という女子大生は、授業の一環で1年生の時に関わったのがきっかけでしたが、3年生になった今でも遠方からはるばる来いています。

また、ある青年は「家族の勧めで何となく来始めましたが、実際にやってみたら、こんなに楽しいと感じたことは初めてだったんです。子どもたちが声をかけてくれたり、一緒に活動したりしているうちに存在意義を感じるようになりました。一緒にやらせてもらえて嬉しい」と話してくれました。

ボランティアは中学生から大人まで色々な世代にわたります。それぞれが得意分野を活かしながら、広場に集まる子どもたちと接しています。「活動しているうちに学び合う場になっていました。自分たちも成長させて貰ってます」と皆声をそろえます。

ここに集う若きボランティアの想いが心に響きました。



■入間市ノルディック・ウォーク愛好会 島崎佐智子さん(東藤沢)
人生を変えてくれる2本のポール

スキーのストックのようなポールを両手に持って歩く「ノルディック・ウォーク」をご存知ですか？「元気で長生きする秘訣は、いつまでも自分の足で歩くこと」をモットーに、健康のためだけでなく、治療院で運動療法としても取り組んでいるのが、島崎佐智子さん(72歳)です。

「どういうきっかけでノルディック・ウォークを始められたのですか」「治療師の協会が開いた講習会で、身体機能の維持や高齢者の転倒防止に役立つという説明を聞いて、これを治療やリハビリに取り入れたら効果がある、と感じたのがきっかけです。早速、『全日本ノルディック・ウォーク連盟』の指導員講習を受けて資格を取りました」。

島崎さんに勧められて、初心者の人たちと藤の台公民館周辺を約1時間楽しくウォーキング。日頃使っていない筋肉を動かしていることを実感できました。

「両足とボールの4点で身体を支えるので、背筋がピンと伸びて大きい歩幅で歩けます。普通のウォーキングより30%以上もエネルギーを使う全身運動なんです」と、改めて効果を教えていただきました。



▲桜の中で50回記念を達成



▶僕たちも歩きましょう

▲準備運動をしつかり

平成21年3月に『入間市ノルディック・ウォーク愛好会』が発足し、現在島崎さんはその顧問として指導にあたっています。3年を経過した今、会員は80名を超えました。今年4月には、スタートして50回目となる記念ウォークを、霞川河畔で桜を眺めながら行いました。「自分の足で歩き続けることができれば、家族や周りの人への負担もいくらか減ると思います。いくつになっても、元気に自分の足で歩ける人が増えてほしい。2本のポールとの出会いが、その後の人生やものの見方を変えていくこともあると思うのです。そのために、これからもノルディック・ウォークの普及を続けていきます」と島崎さん。熱い想いがじーんと伝わってきました。



■人生を豊かにする音楽家 野仲啓之助さん(久保稻荷)
三世代で楽しめるコンサート

『ワンダフルチャリティーコンサート』は、子どもたちが本格的な音楽に触れること、コンサートを通じて入間市の社会福祉に貢献することを目指す。11年間にわたって入間市市民会館で開催されています。また、演目にピーターパンを加えるなどの工夫から、三世代で楽しめるコンサートとしても根強い人気があります。

このコンサートの実現に向けて中心的な役割を担ったのが、音楽家の野仲啓之助さん(67歳)です。

「1回目のコンサートが実現して、指揮台で演奏者との一体感を肌で感じ取ったときに、自分の心の中に輝くものがありました。また、アンコールを求める波のような拍手にも感動しました」と野仲さんは振り返ります。

野仲さんがコンサート開催に向けた想いを抱いたのは、審査員として赴いた各地で「もつと気軽に、より安価に名曲を味わえるオーケストラを！」という言葉に耳にしたことがきっかけでした。これを心の中で温め続け「地元の入間市で実現できないか」と強く想い続けたことが具現化につながったそうです。



▶指揮をする野仲さん

▲アンコールの拍手に応えるメンバーたち

幸いにも、東京フィルハーモニー交響楽団の昔の仲間や他楽団の有志の協力もあり、この計画は思ったよりも早く実現しました。「根強い人気があるコンサートです。次の開催に向けて構想を練っているとありますが」という質問には、「オーケストラの演奏者とは各地の演奏会場で顔を合わせる機会も多いので、計画を膨らませているところですよ」と、笑顔が返ってきました。その笑顔からは観客の人生を豊かにする音楽家という印象が伝わってきました。



3-Dアートサークル 大矢栄子さん(宮寺)
見ていただくことが作る喜びに

今にも額の中から飛び出してきそうな馬、つまんで食べたくなるような苺。同じ絵を何枚も貼り合わせ、奥行きを持たせた立体画をシャドウボックスと言います。

活動場所である藤沢公民館の工作室では「これどうするの？」「間違えちゃった」といった声が響きます。あちらこちらから上がるメンバーの声一つ一つに、優しく丁寧に応じているのが大矢栄子さん(47歳)です。

大矢さんとシャドウボックスとの出会いは、義妹さんの不思議な作品を見た時でした。「三次元の世界？色んな方向から見てもみましたが、沢山の絵が層になっていて、普通の絵とは違います。立体的で、吸い込まれそうな感覚になりました」。その場で作り方を教えてもらいましたが、どうしても忘れられなくなり、市内の教

室に通い始めました。

全課程を修了する頃に友人のかけ声で始まったサークルは、10年目を迎えました。大矢さんは、「一人一人の個性を大事にしたいと考えています。メンバー皆が同じ作品を作るとはなく、自分の作りたいものに挑戦し、それぞれのペースで完成させてほしい。期限は設けず作品に集中できるように心がけています」と話します。

こうした教え方が喜ばれ、個性豊かな作品が生み出されているのと同じに、メンバー同士の和が深められています。

「文化祭や展示会など、多くの方々に見ていただくことが励みになり、また、作る喜びにもなります」と大矢さん。

これからも、素晴らしい作品を作り続けて下さい！



▲今にも飛び出してきそうな馬



▲メルヘンの世界



▲全神経を集中しています



ハスミンの会代表 山口礼子さん(東町)
フラメンコダンスに魅せられて

かき鳴らされるギターの音色。床を踏みしめる足の音。情熱的な踊り。これがスペインの南部、アンダルシア地方で始まったフラメンコです。

『ハスミンの会』代表の山口礼子さんは、その情熱的な踊りや音楽に魅せられた一人です。会の誕生は、友人の金本佐紀子さんに「フラメンコを踊ってみたいの」と口にしたことがきっかけでした。金本さんの紹介で、ハスミンの名で活躍するプロダンサーの長谷川安見さんを講師に迎えて活動がスタートしました。

本場スペインで修業を重ね、とにかく基本に重きを置く長谷川先生のもと、柔軟性を高め、良い姿勢を保つことが中心の練習が始まりました。運動の基本は頭の前から手足の先までをできるだけ遠くに伸ばすことです。

「すぐに華やかな踊りができるのか」と思っていました。床の上での運動が続いて気落ちしたこともあり「床の上で踊るのって、あることに気が付きます。体が柔らかくなったのか、転んだり怪我をしたりすることが少なくなりました。フラメンコの華やかさとの違いからサークルを離れ

る仲間もいましたが、あきらめず続けたことで基本の大切さを理解できた気がします。

床に仰向けになり、指導の声に合わせて呼吸を整えながら徐々に体をほぐしていきます。最初は思うように体が動かず時間がかかりましたが、今では自主練習の成果もあり1週間のブランクも瞬く間に解消されます。

活動が始まって3年が過ぎ、フラメンコには欠かせないパルマ(拍手)の練習も少しずつですが始まりました。フラメンコダンスには欠かせないパルマ、なかなかリズムに乗れません。将来見事なダンスを披露することを夢見て、毎週の練習が続きます。

がんばれ
『ハスミンの会』



▲基本の体操



▶パルマの練習



胡弓研究会代表 高木幸江さん(牛沢)
胡弓の音色に心を奪われて…

40年以上も地域を見守ってきた黒須公民館。その一室から、心を癒す弦楽器の美しい音色が聞こえてきます。昨年3月、高木幸江さん(69歳)が立ち上げた『胡弓研究会』がここで活動しています。胡弓奏者の新井朝子先生を招き、その熱い指導を受けながら日々練習を重ねています。



▲哀愁をおびた美しい音色を共有しています

そんな想いが形になり、胡弓研究会は昨年秋に黒須文化祭へ参加。今年に入ってから、市の邦楽芸能発表会で三味線等との合奏も行いました。さらに11月には日高市で開催される演奏会にも参加します。

胡弓を始めたきっかけについて高木さんは、「民謡に関わる中で、胡弓の演奏を見る機会がありました。59歳の時のことです。柔らかに哀切のこもった、ずっしりとねばりのある音色に一気に魅了されました。その出会いがきっかけで胡弓にのめり込みました」と話します。

高木さんのように、年齢にかかわらず誰にでも始められるという胡弓研究会のメンバーも30代から60代と幅広い年代が集まります。

「先生のもとで半年間学ぼううちに、仲間とともに演奏をしたいという気持ちが高まりました。サークルがスタートして1年半ほどですが、胡弓の響きと日本人の心の音色を研究しながら、心に深く染み込む音の世界を皆で楽しんでいます」と高木さん。

近づく目標に向かって、胡弓研究会のメンバーは日々奮闘！その美しい音色にほれほれしながら、一人一人丁寧な指導を受け、モチベーションを高めています。

※胡弓(鼓弓)について
日本の伝統的な弦楽器の一つ。三味線に似た形をし、馬の毛で作った弓で擦って音を出す。主に箏や三味線との合奏が多く、古くから歌舞伎等の芸能に用いられることが多い。富山の祭り「おわら風の盆」で演奏される越中おわら節には欠かせない楽器である。



▶情緒ある音色の美しさを堪能しつつ…(黒須文化祭にて)



▲芸能発表会で三味線等とも合奏(産業文化センターにて)

第18回いるま生涯学習フェスティバル

テーマ 探そう 活かそう 学びの輪
キャッチフレーズ ~やりたいときがハジメドキッ~

生涯学習してみませんか？ 学びのきっかけを見つけに来てみませんか？
あなたにとっての“学びの輪”が見つかるように、たくさんの学び・楽しさをご用意しています！

日時：平成24年12月2日(日)
午前9:45～午後3:45
場所：入間市産業文化センター・図書館・児童センター
共催：入間市・入間市教育委員会・(財)入間市振興公社
入間市生涯学習をすすめる市民の会
主管：第18回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会



編集後記

●地域で活動していることが、これから先の人生において、どこかでお役に立てれば、幸いかと思います。(HT)

●人間に移り住んで30数年。近くの不老川の水が、かたがたの初めて見ました。川の水がきれいになり、泳いでいたカルガモや魚はどこへ行ったのでしょうか？(MK)

●音楽って素晴らしい！その音楽が五臓六腑に響いて来る時、ああ、生きてるんだなあって、つくづく感じます。そして明日への活力が蘇って来るんデス。(NT)

●色々な想いを持って活動している青年たちを見かけると、とても頼もしく感じ応援したくなります。ここ人間にもかがやく青少年達が大きいです。(SM)

●生涯学習は整理・整頓・清掃からと考えています。朝のウォーキングから掃除までが、習慣化されている我が家では、朝食も旨く、健康維持にもつながっています。(ST)

●歩道のない通路路で、下校する小学生達の見守り隊に参加しています。乱暴な運転をする人が少ないことで、救われているように感じます。(TS)

企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 事務局
入間市教育委員会生涯学習課
〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1
TEL 04-2964-1111(内線4123) FAX 04-2964-4841